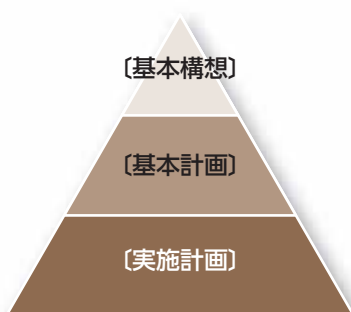


計画策定へ 本格的に再スタート!



新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、新しい総合計画を策定するための審議会やワークショップなどの中止・延期が余儀なくされ、市民の皆さんの声を反映した計画策定が困難な状況となりました。そのため、現在の第5次長期総合計画(5次長総)の期間を令和3年度までの1年間延長し、策定のための十分な時間を確保して市民の皆さんの声を反映しながら計画策定を進めていきます。今回は約半年振りに開催された審議会で話し合われた内容を紹介します。

①新計画の構成・期間を検討しました



これまで委員の方々からいただいていた意見などを踏まえ検討した結果、次の方針で、今後の策定作業を進めることになりました。

- ・新計画の構成については、5次長総と同様の3層構成(基本構想-基本計画-実施計画)とする。
- ・基本計画を前期・後期に分け、社会情勢の急速な変化等に対応した修正計画を策定することができるようにする。
- ・期間については、基本構想:10年・基本計画:前期5年・後期5年を基本とする。

②「基本構想」骨子(案)を話し合いました

「基本構想」は長期的視点で、「めざす都市像」や「まちづくりの基本理念」、「まちづくりの目標」などを明らかにするものです。審議会では、新計画の「基本構想」の骨子(案)についても意見を交換しました。

5次長総の総括や時代の潮流、市民アンケートの結果などとともに、新型コロナウイルス感染症がもたらす生活面や経済面への影響を踏まえ、『まちづくりの課題』などの把握を行っています。また、これまでのアンケートや審議会、地区別懇談会、高校生との意見交換会などで出された「市民が考える今後のまちづくり」と、今後、市民の皆さんからいただく意見を参考にしながら、わたしたちが目指す10年後のまちのすがたなどを明確化し、これからの塩竈にふさわしい「基本構想」を策定していきます。

<「基本構想」策定の考え方>

